

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2025年4月)

2025年4月2日

調査部 副主任研究員

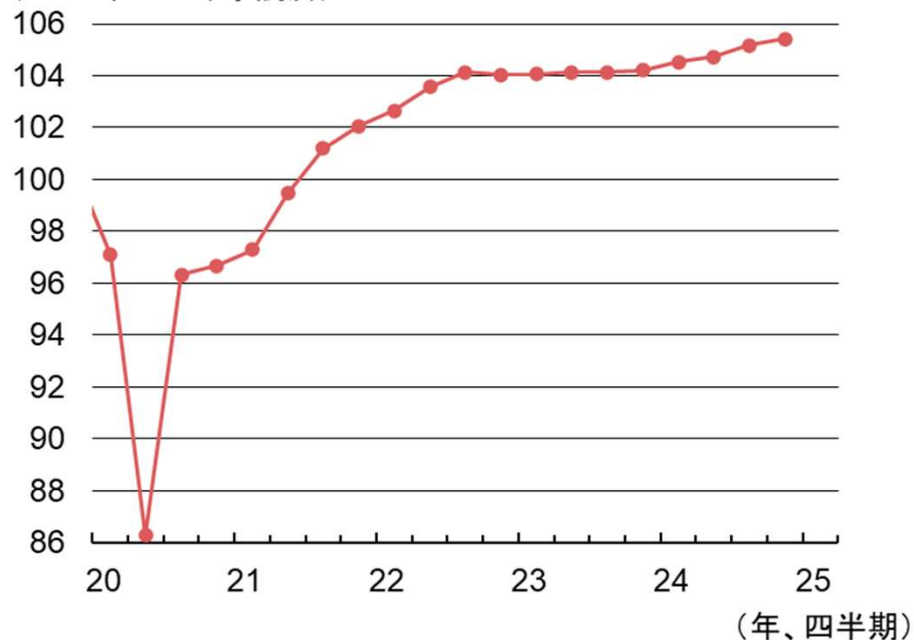
土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

ユーロ圏の2024年10-12月期の実質GDP(確定値)は前期比+0.2%と、7-9月期(同+0.4%)から増勢が鈍化した。スペインが堅調(同+0.8%)を維持し、イタリア(同+0.1%)が再びプラスとなったが、ドイツ(同▲0.2%)とフランス(同▲0.1%)がマイナス成長となった。一方、最新25年3月の景況感指数は95.2と再び低下し、均した動きは横向き。

実質GDP

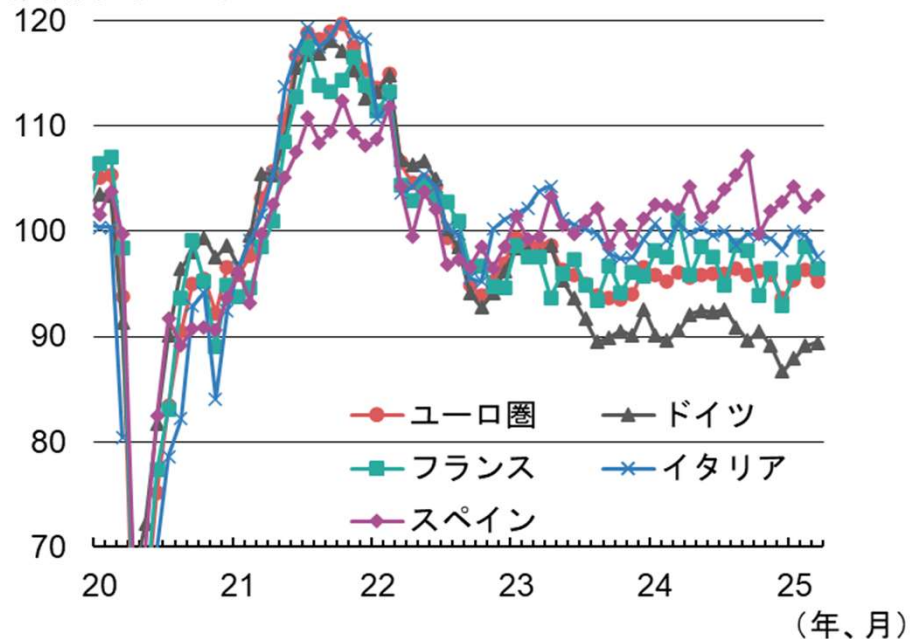
(2021年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

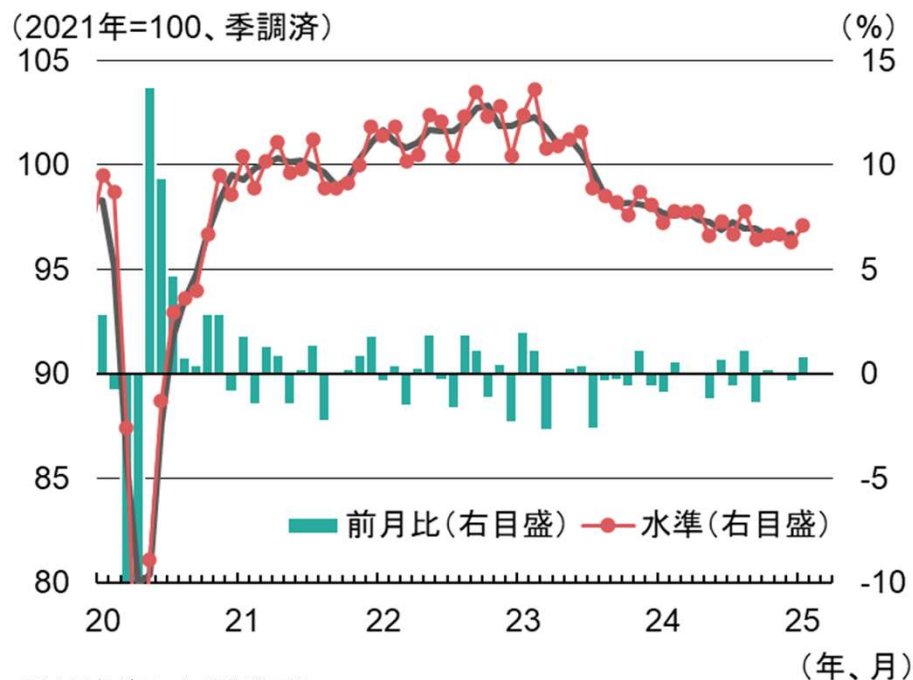


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

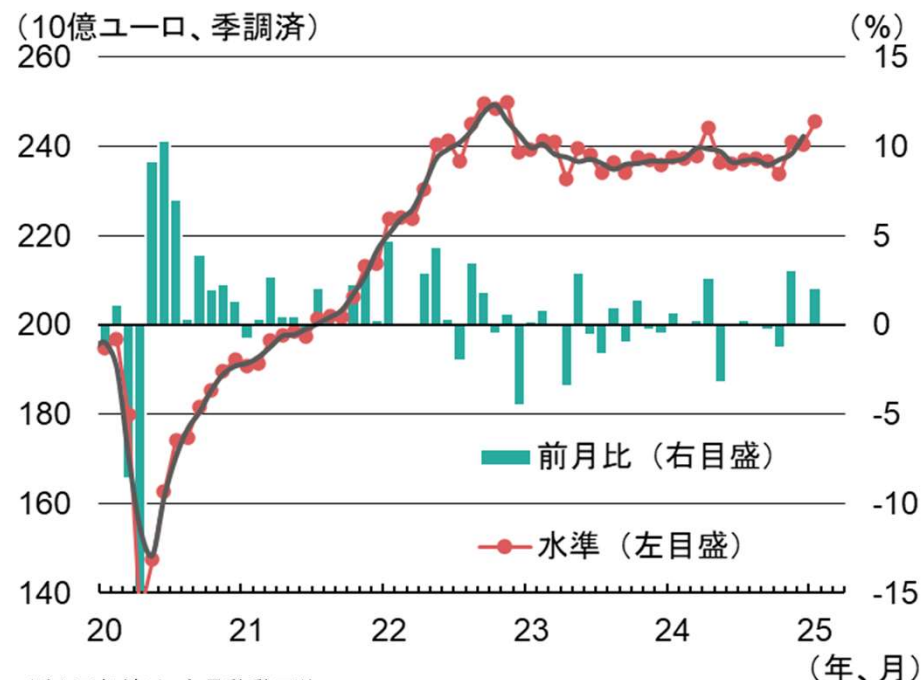
ユーロ圏の1月の鉱工業生産は前月比+0.8%と増加に転じ、均した動きは横向き。一方で、同月の名目輸出は同+2.1%と再び増加し、均した動きは上向き。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

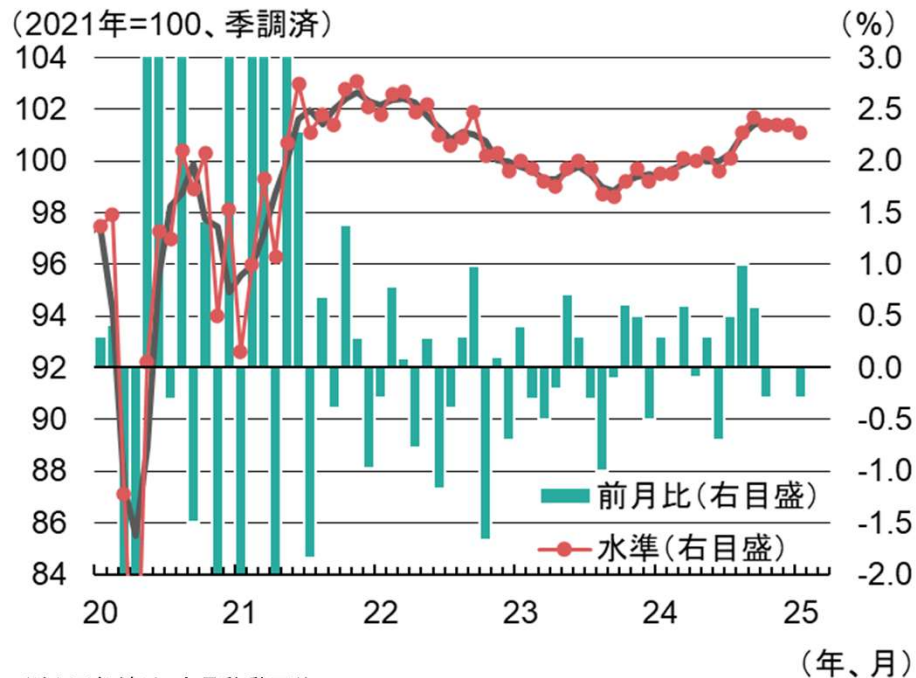


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は足踏みしている

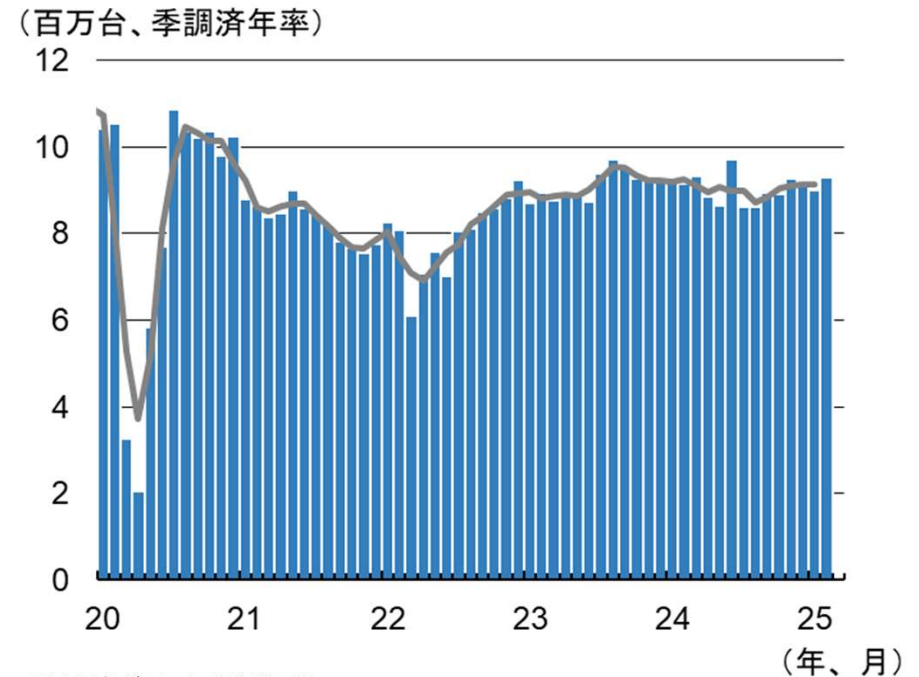
ユーロ圏の1月の小売数量は前月比▲0.3%と再び減少し、均した動きは横向き。一方で、翌2月の新車販売台数は前月比+3.4%の年率931万台と3カ月ぶりに増加したが、均した動きは横向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

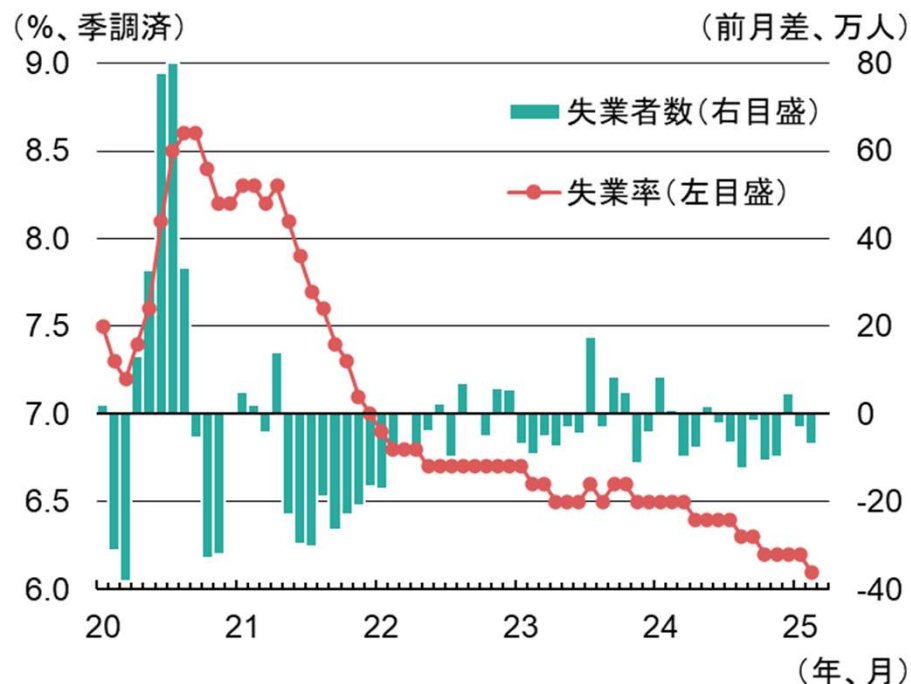


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が進む

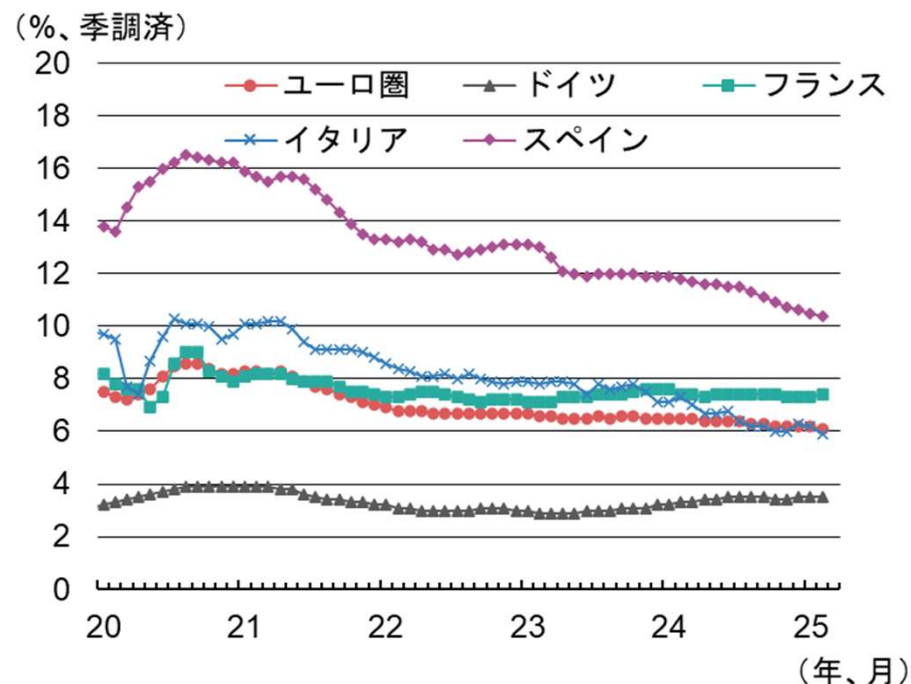
ユーロ圏の2月の失業率は6.1%と5カ月ぶりに低下した。一方、同月の失業者数は前月差7万人減と1月(3万人減)からマイナス幅を拡大させており、雇用は改善が進んでいる。主要国別に失業率を見ると、ドイツが上昇トレンドである一方で、フランスは横ばい、イタリアとスペインは緩やかな低下トレンドである。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

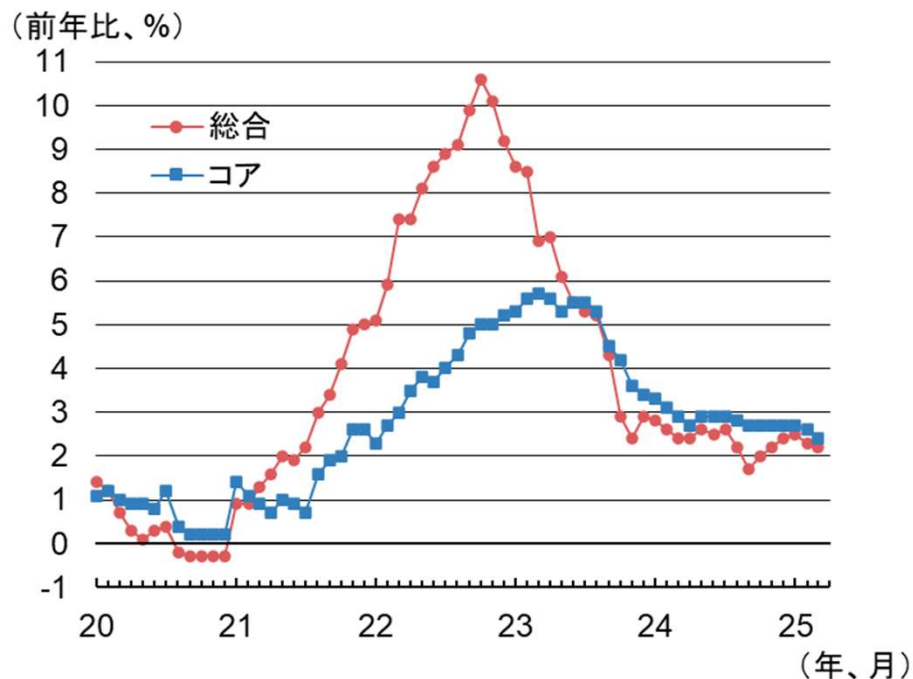


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

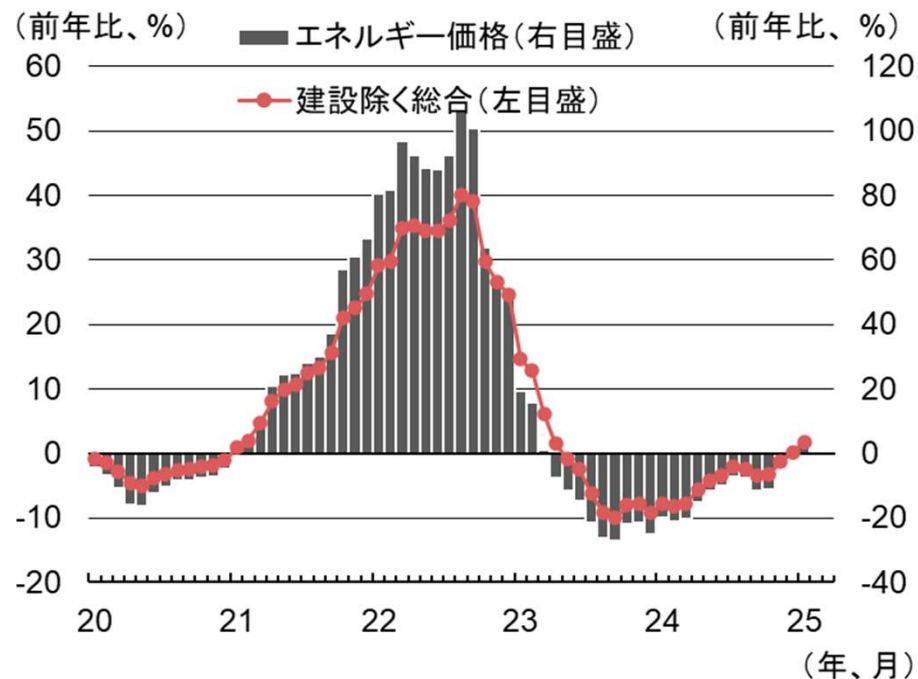
ユーロ圏の3月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.2%と、2カ月連続で伸びが鈍化した。また変動が激しい項目を除いたコアベースも同+2.4%と前月(同+2.6%)から伸びが鈍化したため、インフレは安定していると判断される。一方で、生産者物価(建設除く総合)は1月時点で前年比+1.8%と前月(同+0.1%)から伸び率を高めた。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

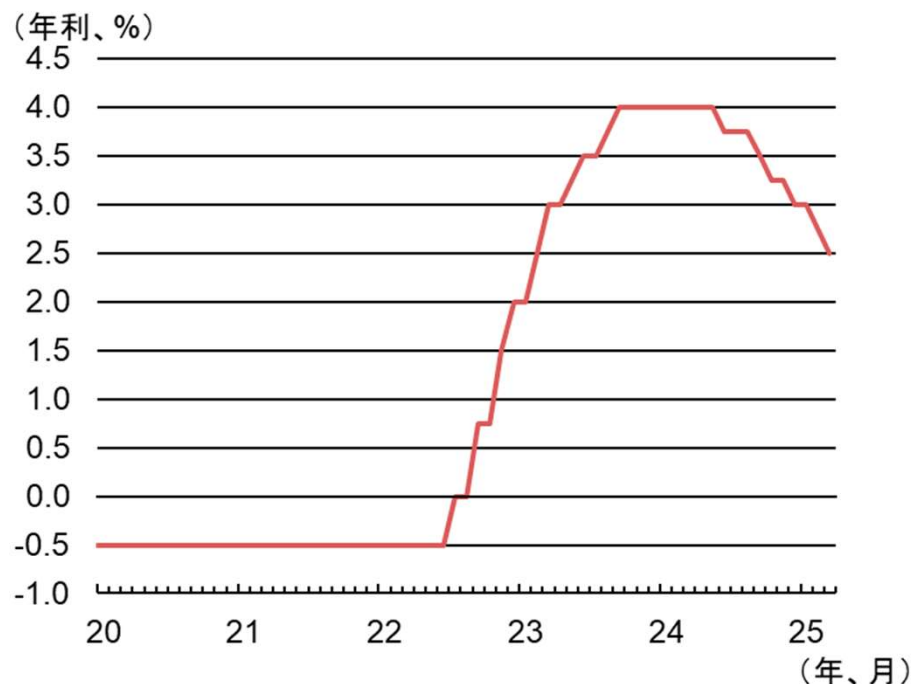


(出所) ユーロスタット

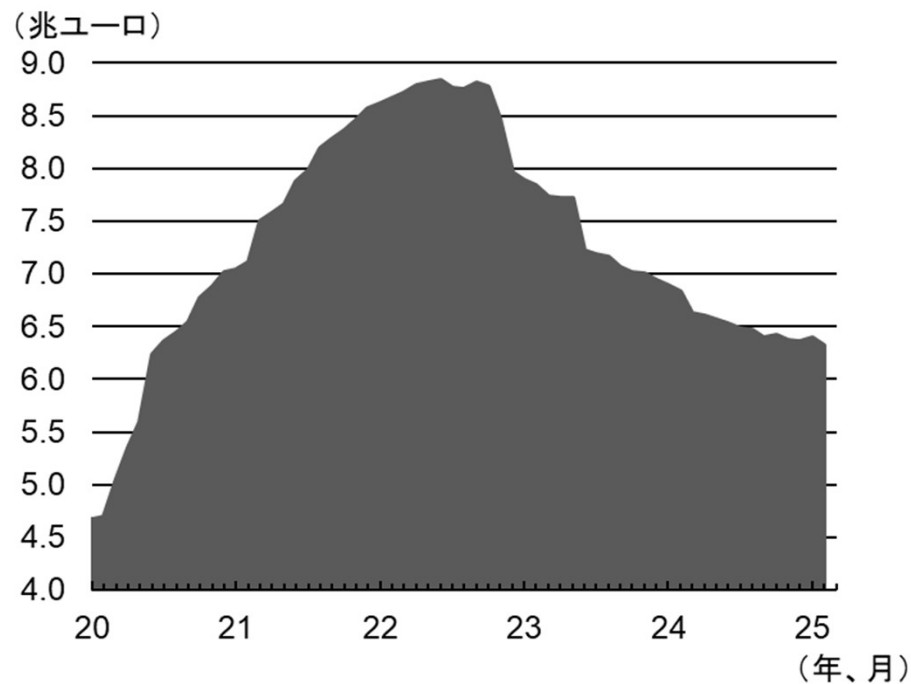
ユーロ圏景気概況⑥ ECBは3月理事会で追加利下げを実施

欧州中央銀行(ECB)は3月6日の理事会で、事実上の主要政策金利である預金ファシリティー金利を0.25%ポイント引き下げ、年2.5%とした。ECBは引き続きデータに応じて追加利下げの機会を探る方針だが、欧州再軍備計画などに伴う歳出増がインフレを刺激する可能性が高まっている。次回の理事会は4月17日を予定。

政策金利(預金ファシリティー金利)



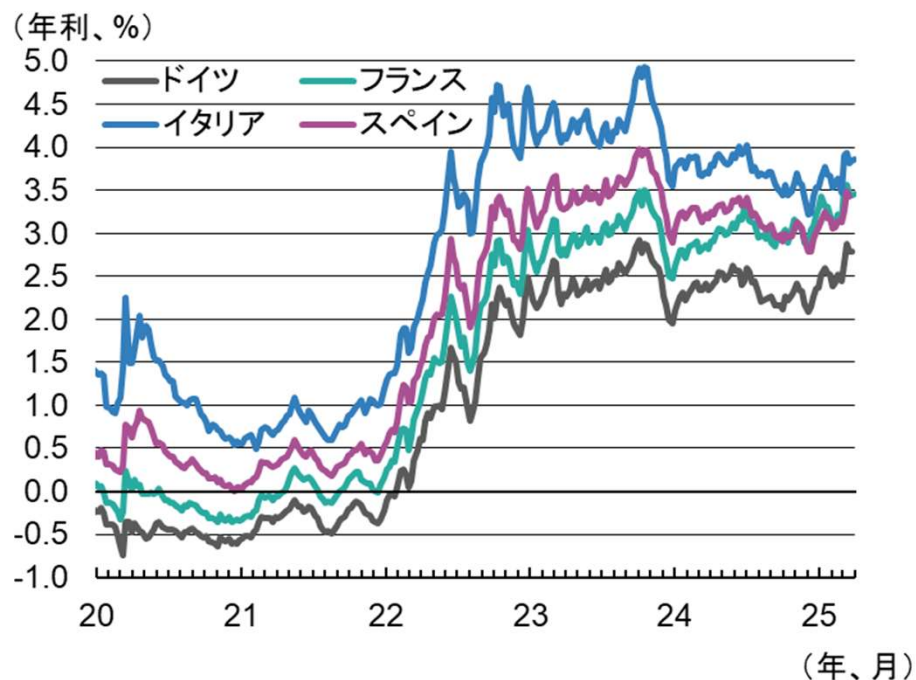
ユーロシステムのバランスシート



ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

3月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇。欧州再軍備計画が発表されたことに加えて、ドイツで財政規律を緩和する動きが進んだことが長期金利を押し上げた。一方で、同月の株価は下落した。米国の通商政策に対する不透明感の高まりからグローバルな株安が生じ、ユーロ圏の株価も下落した。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

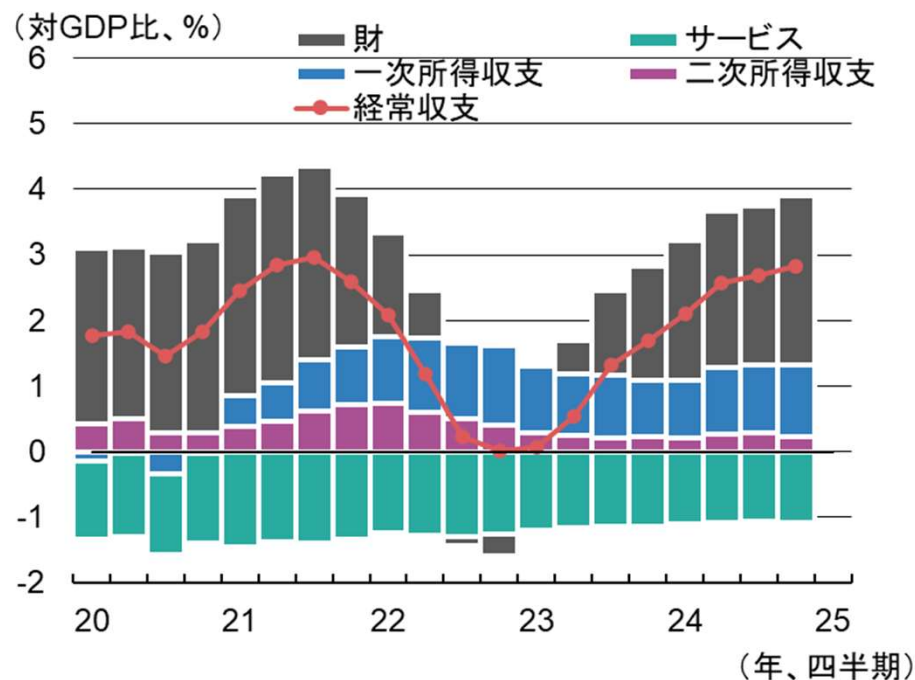
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で上昇

3月のユーロ相場は対ドル・対円で上昇。金利の上昇を受けてユーロ買いが進んだ。経常収支は財収支(貿易)黒字が拡大しており、実需面からのユーロ買い圧力が徐々に強まっている。

ユーロ相場



経常収支

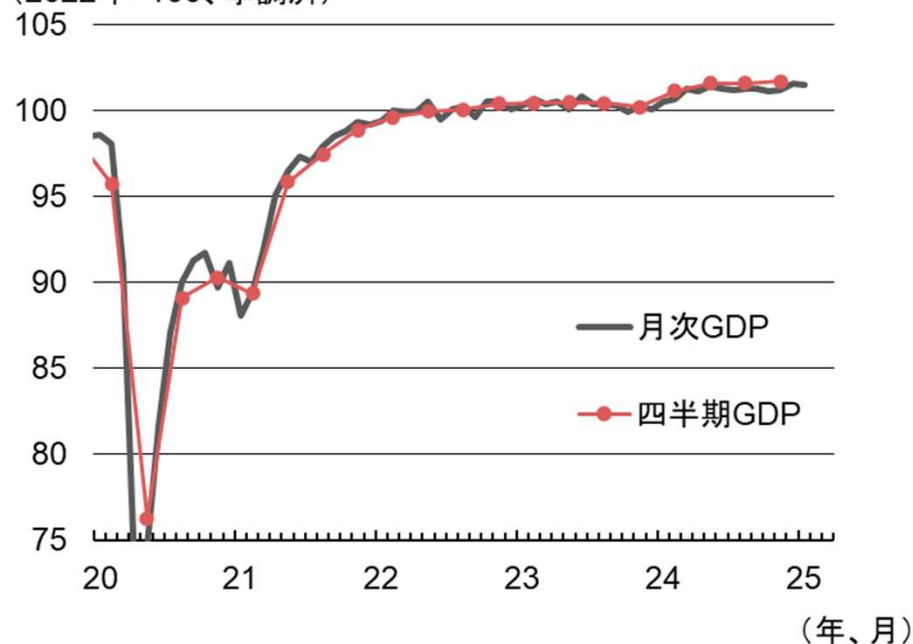


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の2024年10-12月期の実質GDP(確定値)は前期比+0.1%と、再びプラス成長になった。主要な需要項目別には、個人消費が横ばいとなった一方で、総固定資本形成と輸出がマイナスとなり、景気を下押しした。一方、1月の月次GDPは前月比▲0.1%と10月以来の減少に転じた。

実質GDP

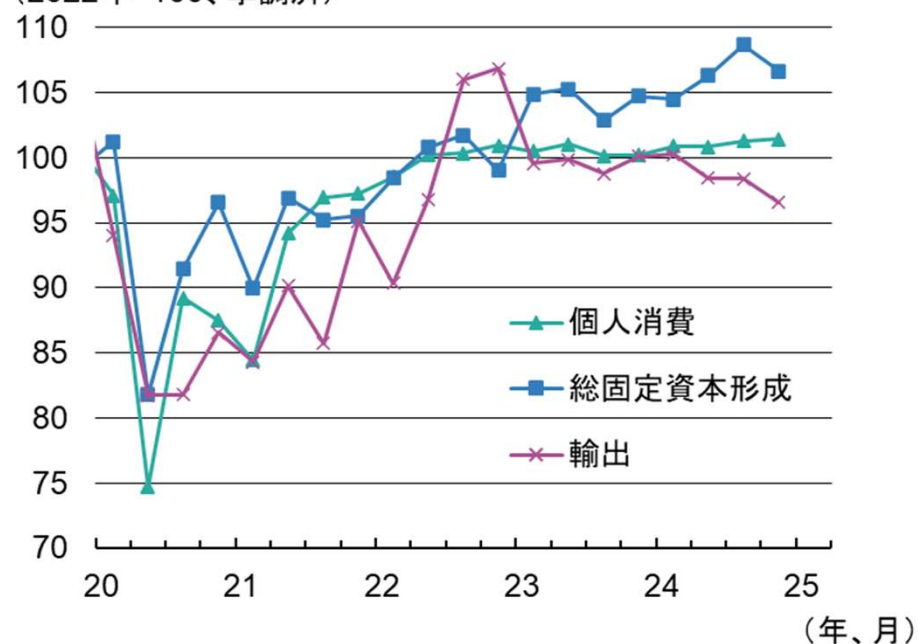
(2022年=100、季調済)



(出所) 英国立統計局 (ONS)

主要な需要項目

(2022年=100、季調済)

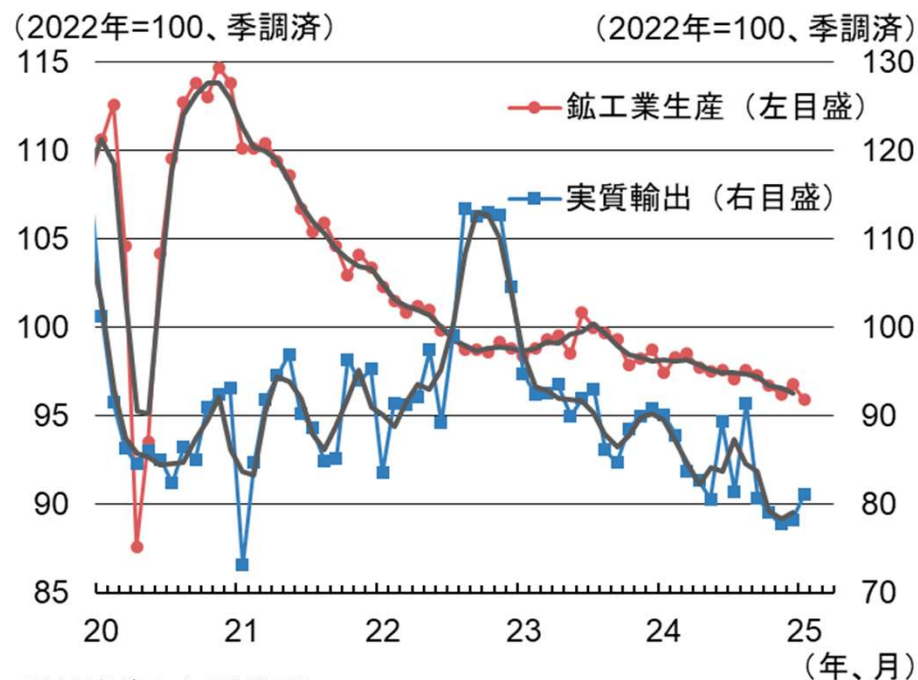


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は減少している

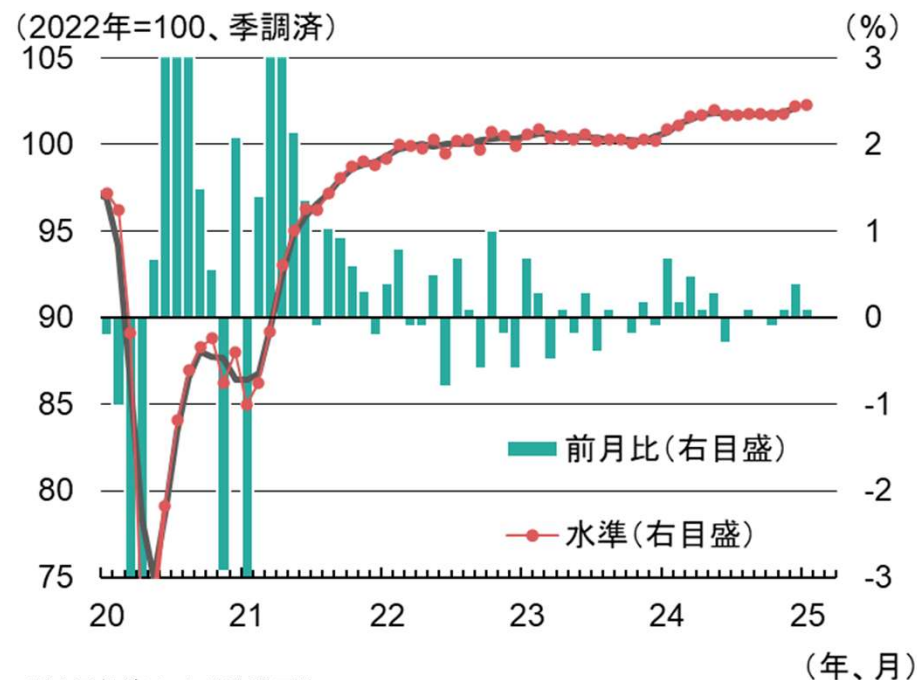
英国の1月の鉱工業生産は前月比▲0.9%と再び減少し、均した動きも下向き。一方、同月の実質輸出は同+3.5%と前月(同+0.7%)より増勢を加速させたものの、均した動きは底ばい状態。他方で、1月のサービス業生産は前月比+0.1%と12月(同+0.4%)から増勢を鈍化させたが、3カ月連続でプラスとなった。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

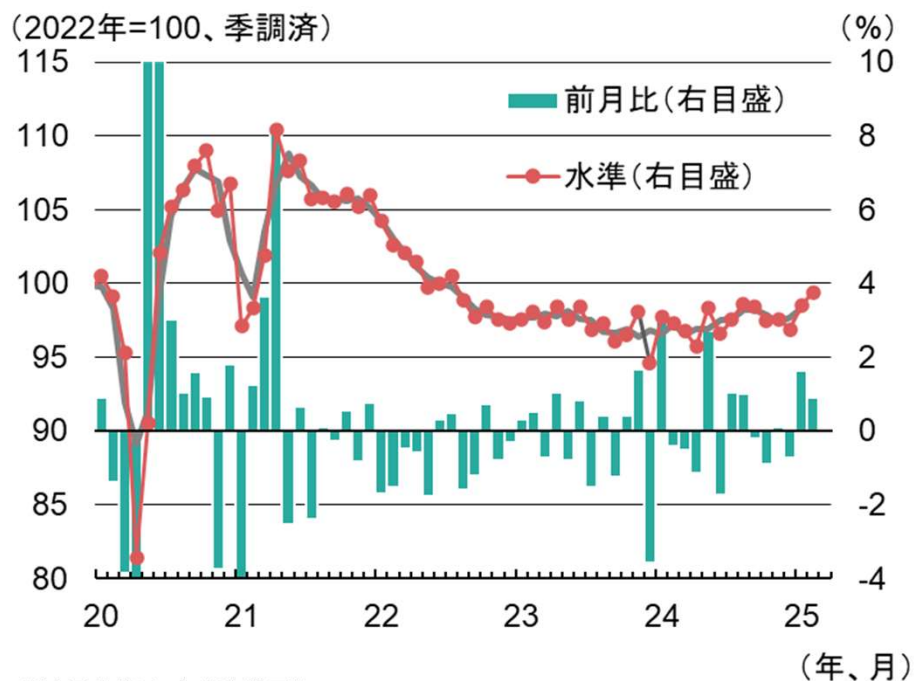


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

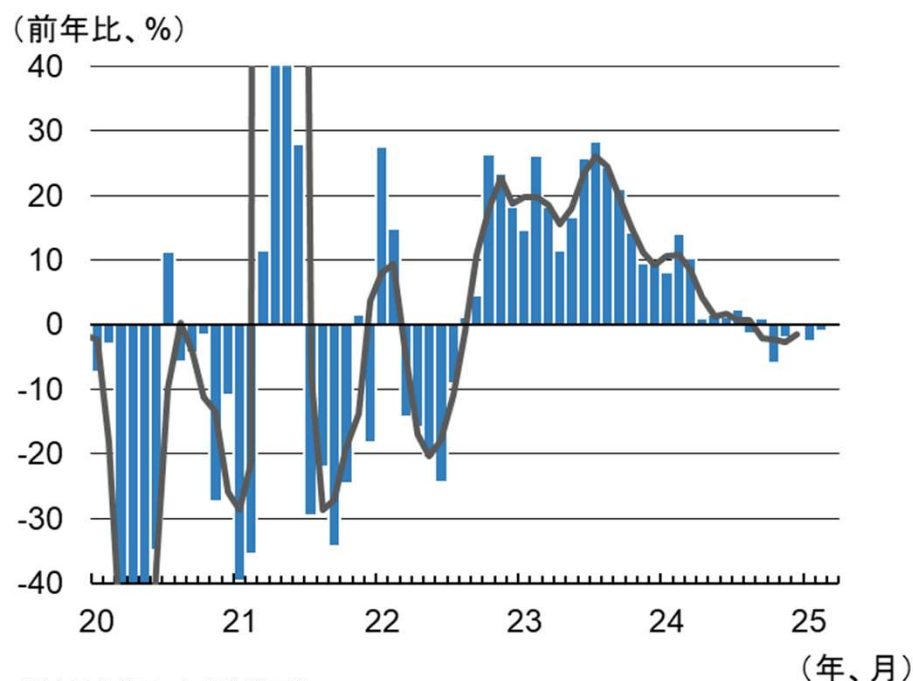
英国の2月の小売数量(除く石油)は前月比+0.9%と2カ月連続で増加したが、均した動きは上向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比▲1.0%と5カ月連続で前年割れとなり、市場は縮小傾向。新車市場の規模は年率で190万台半ば。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

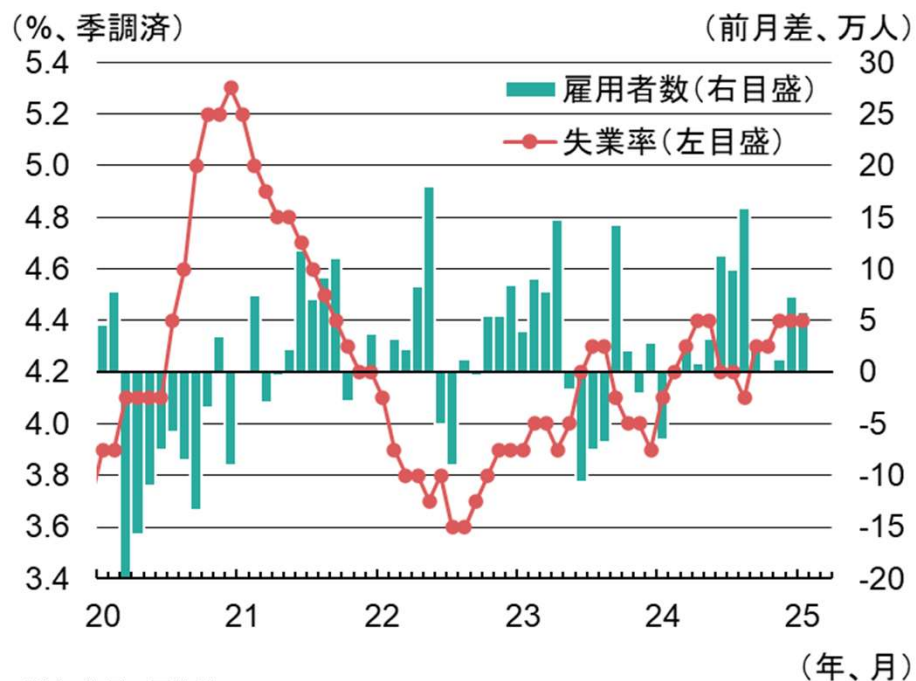


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会 (SMMT)

英国景気概況④ 雇用は改善している

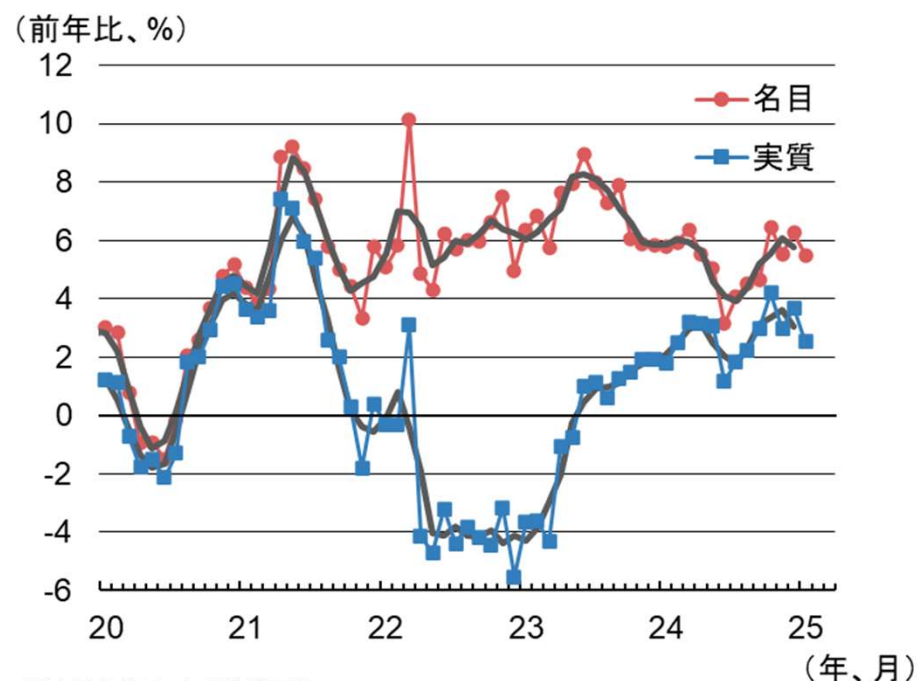
英国の1月の雇用統計は、失業率(11-1月期平均)が4.4%と3カ月連続で同水準。一方で、雇用者数は前月5.9万人増と12月(同7.3万人増)よりプラス幅が縮小したものの、雇用は改善していると判断。他方で賃金の動きは、名目ベースだと前年比6%近くまで、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同3%台近くまで増勢が加速している。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

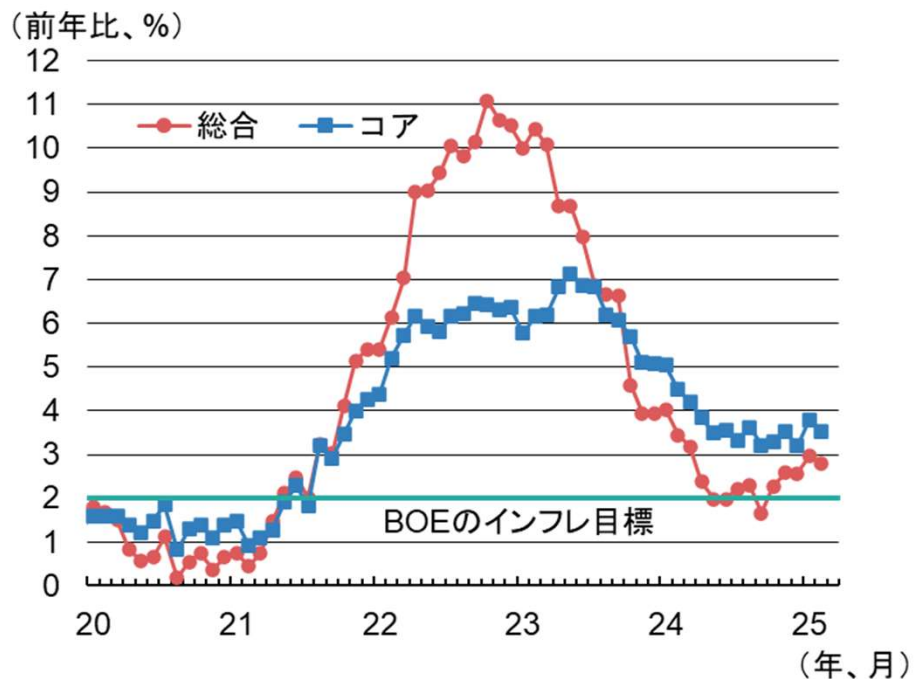


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは加速が一服

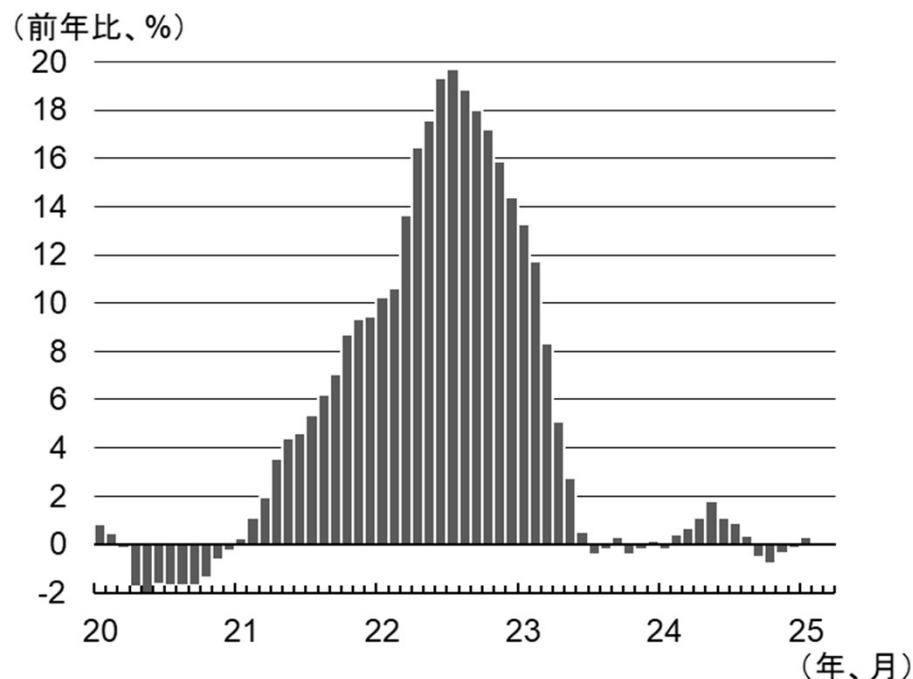
英国の2月の消費者物価は、総合ベースが前年比+2.8%と、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+3.5%とそれぞれ前月から伸びが鈍化しており、インフレは加速が一服と判断。他方で、消費者物価の先行指標となる生産者物価（産出ベース）は、1月時点で同+0.3%と24年8月以来のプラスに転じた。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価

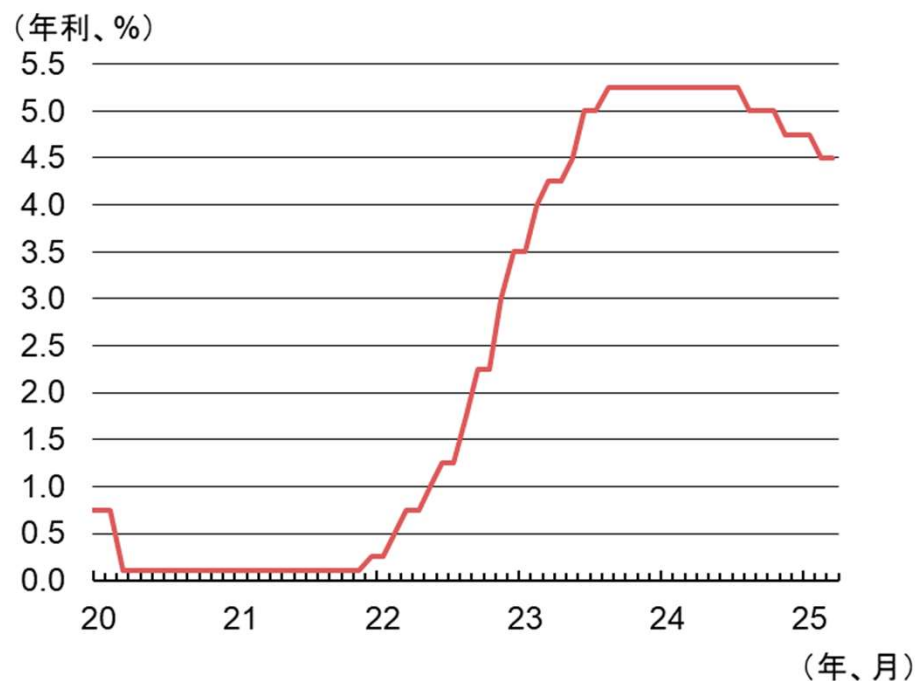


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは3月委員会で金利据え置き

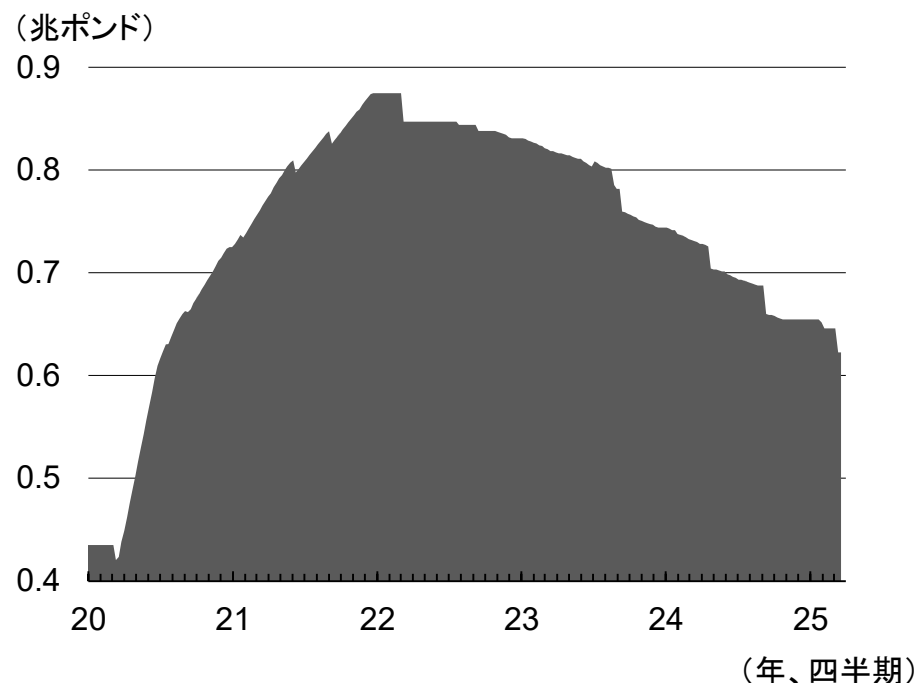
イングランド銀行(BOE)は3月19日に金融政策委員会(MPC)を開催し、翌20日に政策金利を年4.5%に据え置くと発表した。労働党政権が新年度より拡張型予算を執行するため、BOEはその影響を見極める方針。次回MPCは5月8日に開催予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

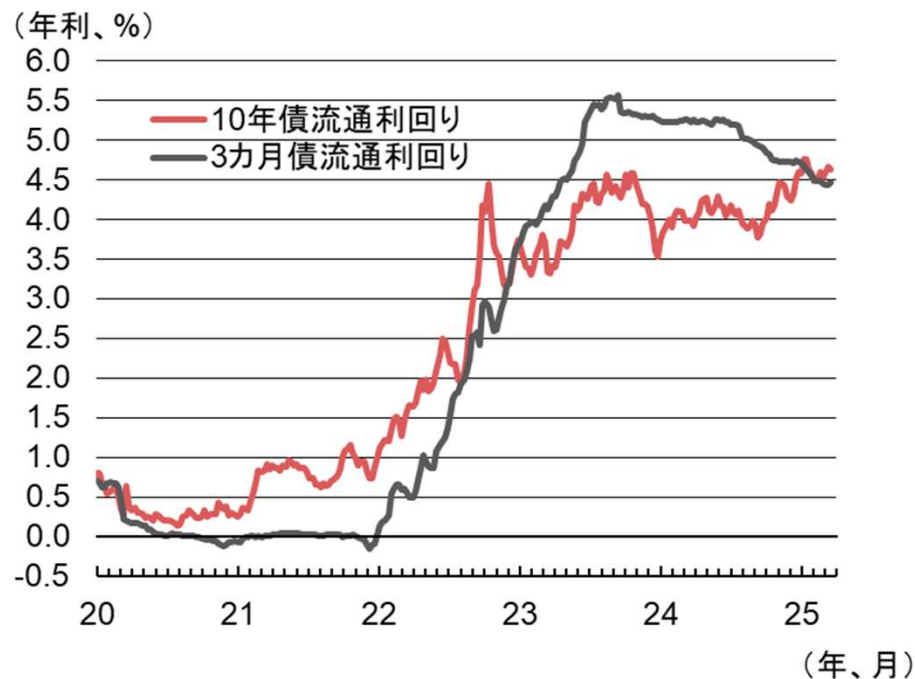


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

3月の英国の長期金利は上昇。労働党政権による拡張型予算が執行されることやドイツ金利が上昇したことから英国の金利が上昇した。一方で、同月の株価は下落した。米国の通商政策に対する不透明感の高まりからグローバルな株安が生じ、英国の株価も下落した。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所) BOE

株価 (FT30指数)

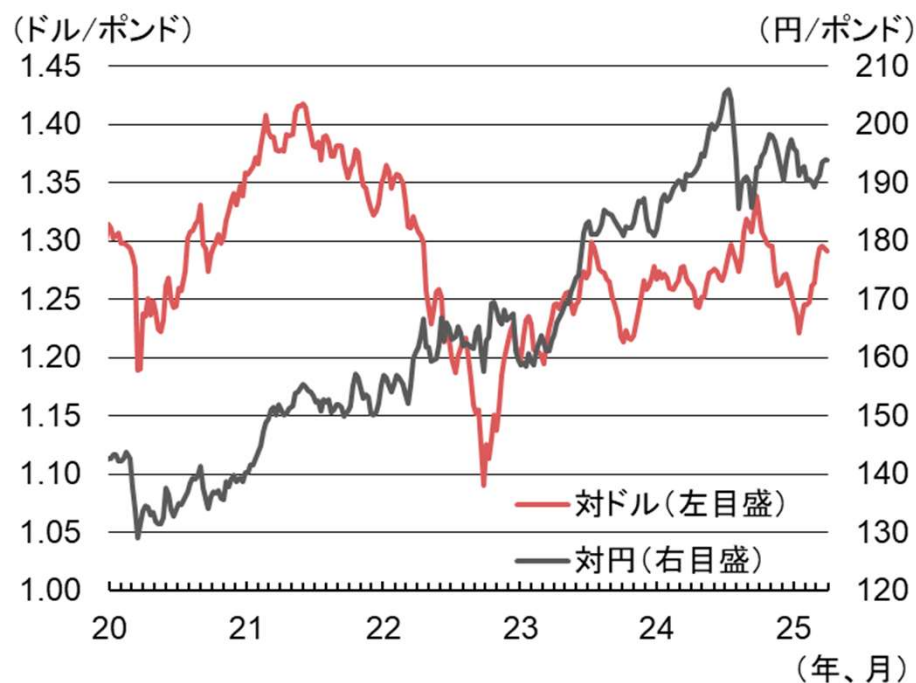


(出所) Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円で上昇

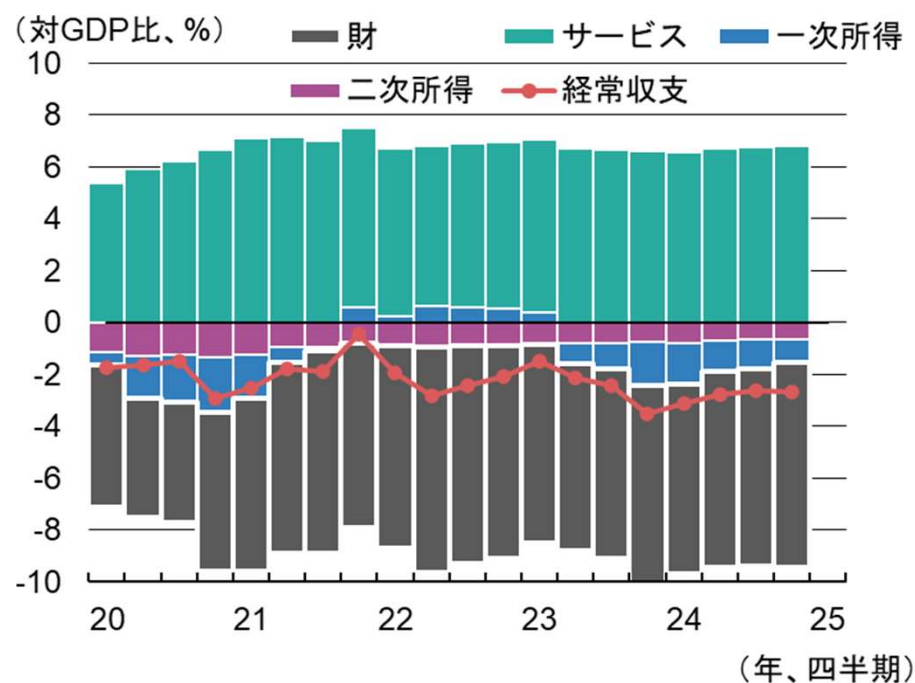
3月のポンド相場は対ドル・対円で上昇。金利の上昇を受けてポンド買いが進んだ。経常収支は名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所) BOE

経常収支



(出所) BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー